

私たちはご利用者の生活を支援するために24時間がんばります！

ローゼン Rosen だより

2023年 4月号

＜発行元＞

社会福祉法人千葉県福祉援護会

〒273-0047

千葉県船橋市藤原 8-17-2

(ホムペ -ジ)

<https://engokai.or.jp/>

(メール)

info@engokai.or.jp

『地域共生社会の実現に向けて②』

～連携強化から公益的な取り組みへ～

(報告：地域福祉推進委員会 石井 香里)

いま地域では、高齢化や少子化による人口減少、単身世帯の増加、核家族化による世帯構造の変化に加えて、新型コロナウイルス感染症の影響で活動制限が続いたこともあり、暮らしや働き方に関する価値観が多様化したことにより、生活や福祉に関する課題は、経済的な面だけでなく、社会的な孤立を背景に複雑化・多様化しているように感じております。そのような中では、福祉制度で行うサービスだけで対応することが難しい事例も増えてきております。あらためて地域の連帯感や「ともに支え合う機能」を地域の皆様と共に大切にしたいと考えております。

当法人は、制度内のサービスに加えて、社会福祉法人の使命である「地域における公益的な取り組み」について、地域の一員として活動を進めるため、地域福祉推進委員会を設置しております。委員会では、複雑化・多様化している福祉ニーズを察知し、その解決を実践していくために、法人内の地域共生支援部と連携しながら更なる取り組みを推進して参りたいと考えております。地域共生支援部は、委託事業も含めた「地域の相談窓口」として活動する事業所で構成されており、今年1月に開催したオンライン会議では、閉じこもりがちの方が身体機能の低下によって、心身の状態が悪化するケースが増えており、地域の中に誰でも参加できる「通いの場」があると良いとの“地域の声”を共有しました。委員会としてもこのような“地域の声”に触れ、法人が持つ建物や設備など地域の社会資源としての機能を有効に活用して頂けるよう検討することとしました。また、今後に向けて実施内容や頻度、対象となる方、定員などを関係機関と協議しながら、取り組みの効果が高まるよう様々な地域資源を活用して連携・協働を図れるよう検討を進めて参ります。

【報告】車椅子体験教室

昨年7月の運営協議会で開催を決定した「車椅子体験教室」を12月に千葉市立生浜中学校において3年ぶりに開催することができました。実際に車椅子に触れたり、操作や介助方法を体験することで、地域でお困りの方を見かけた際に優しい言葉を掛けたり、思いやりのある行動をとるきっかけになることを願います。今後も学校や社会福祉協議会と連携して福祉教育を推進して参ります。



【ノーリフト ～抱え上げない介助への取り組み～】

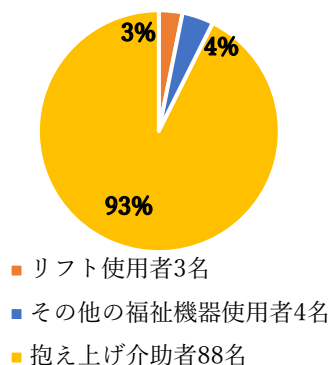
障害事業部門では、平成25年に「腰痛予防対策指針」の改訂（厚生労働省）を受け、腰に負担の少ない介護方法を目指す事として、腰痛の要因の一つである「移乗介助」に着目し、平成28年5月より、移乗介助環境改善プロジェクトチームを立ち上げました。各事業所が実施する「ノーリフト（抱え上げない介助）」の取り組みについて報告いたします。

障害者支援施設 誠光園 / ローゼンヴィラ藤原（壱番館）

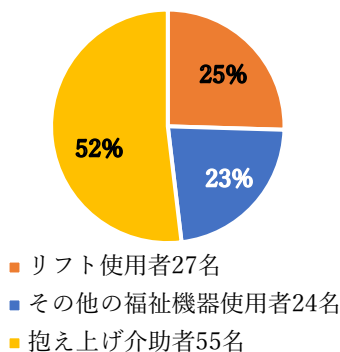
誠光園・壱番館の両事業所では、ご入居者・職員共に、負担の少ない優しい移乗介助を実践するため「抱え上げ〇（ゼロ）」を目指し、リフトインストラクター資格の取得、機器の選定から安全性・操作性等の検証、機器を安全に使用する為の職員研修等をプロジェクトメンバーを中心に行ってきました。それぞれの事業所で得た情報を共有し、研究と実践を重ねた結果、抱え上げの介助が徐々に減少し、誠光園の例を挙げると平成26年に対象者の3%しか福祉機器の使用はありませんでしたが、令和5年には福祉機器の使用者が87%まで増える結果となりました。また、壱番館独自の職員アンケートでは「移乗機器を使用しない介助に戻れますか」の問いに、82%の職員が「戻れない」と回答があり、移乗機器を用いた介護やノーリフトの考えが浸透していることを表しています。今後も抱え上げ介助「〇」を目指し、ノーリフトケアを推進していきます。

<誠光園+壱番館 / リフト及びその他福祉機器使用者の推移>

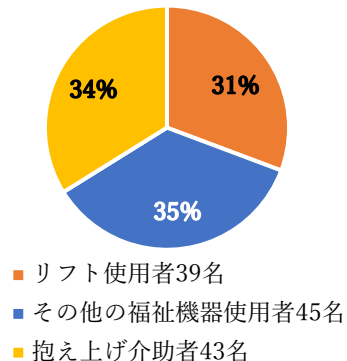
平成26年11月対象者95名



平成30年4月対象者85名



令和4年1月対象者101名



障害者通所施設 アトリエ プレジュ

重症心身障害者の利用が中心であるアトリエ プレジュでは、リラクゼーション活動のスヌーズレンや入浴支援において介護用リフトやスライドシート等の福祉機器の使用はかせません。令和3年にはリハビリスペースにリフトでの移動や座位保持訓練などのメニューの充実のために、小上がりを作成しました。リフトによる移動が出来るようになった事でマット上では出来なかった訓練が可能となり機能維持に努めることが出来るようになっています。

障害者通所施設 オーヴェル

オーヴェルでは、ロボットや機器に頼らずに、生活動作が行えるようリハビリを行っている方も多いため自身の力で移乗できるようスライドボードの購入などを行いオーヴェルで練習を経て実用に結びついた方もいらっしゃいます。現在抱え上げるほどの重度のご利用者はいらっしゃいませんが、在宅で機器を使用している方やこれから導入が必要な方へ機器やロボットの知識をご利用者ご家族に提供できるよう、最新の機器に触れる機会や情報を集め取り入れていくことを課題としています。

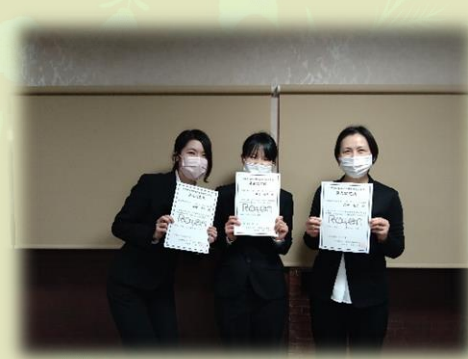


【 安心・安全な生活を守る為に 】

利用者支援を実施している中で、環境的な要因のほかに身体機能面や認知機能面の低下等様々な要因が重なり、事故が発生します。事故発生時は「原因・対策・実施・見直し」のサイクルで再発防止に取り組んでいます。このような再発防止策を継続している中、ローゼンヴィラはま野では、令和2年10月頃に転倒事故が原因で、骨折、入院となる利用者が多く発生しました。そこで利用者に安心・安全な生活を送って頂く事を目的に安全対策委員会を設置し、事故の研究を開始しました。

時間・曜日・発生場所ごとにおける分析や事故・ヒヤリハット件数からみる課題整理・検証を行った結果、支援を実施している職員の意識や気づき、予測・生活環境や支援面に対する工夫をする事で事故減少につながるかもしれないと考えました。意識向上に向けた取り組みとして、時間・曜日・発生場所ごとにおける分析を基に支援をする上で共有すべき注意点を職員間で共有しました。また、自分自身が行っている支援を客観的に確認できるよう、職員が支援を行っている実際の場面等を使用した危険予知トレーニングを実施しました。気づきの視点や予測する力を強化する取り組みとして、職員の考えをアンケートとして確認しました。他の職員の考えを確認でき、考えを共有する事により、気づき・予測の視点の強化につなげる事が出来ました。生活環境や支援面の工夫として、利用者一人ひとりの価値観や考えは異なります。利用者の生活歴や考え・気持ちを確認しながら利用者にあった生活環境の設定や支援を多職種で協議し、整えていきました。3つの視点から取り組みを実施した結果、令和3年度には事故件数を68件減少・ヒヤリハット件数を177件増加する事ができ、利用者の安心・安全な生活に近づける事が出来ました。この研究内容を法人内事例研究発表会で発表させて頂きました。現在、事故減少に向けた取り組みを継続する中で、職員の意識・気づきの維持や事故減少に向けたテクノロジー機器の検討が課題となっており、研究を継続しています。

支援を振り返る事の大切さや多くの職員が従事している中で課題を共有し、お互いの考えを確認する大切さについて研究を通じて再認識する事が出来ました。利用者が心地よく生活でき、家族が安心できる環境・職員が意見を言いやすい環境を今後も整えていき、安心・安全に生活できる施設を目指していきます。



『今後の「こども・子育て支援」に期待を寄せて・・・』

春の陽気が心地よい季節となりました。両保育園とも進級そして新入園児を迎え入れ、賑やかなスタートを切りました。

皆様も報道等でご存じのことと思いますが、2022年の出生率はとうとう80万人を切り、国の推計より11年も早く少子化が加速しているとのことです。

以前岸田総理が「次元の異なる子ども・子育て政策に取り組む」ことを宣言され、子育て家庭への経済政策が進められているところですが、企業の在り方も含め社会全体で、子育てを応援するような意識変革が進んでいくことを願うところです。

今月は子ども家庭庁が設置され、子ども関連の政策が一元化されます。子どもを真ん中にした施策が進んでいくことに大いに期待を寄せるところです。生まれた環境や障害の有無などに関係なく、子ども1人1人が大切にされ、将来に希望を抱きながらすくすくと成長できるような、大きなサポートシステムの一役に保育園の存在があると思うと、改めて身が引き締まる思いです。

子育て支援としてもっと身近なところでは、コロナで分断された地域コミュニティカ、すなわち地域で支える仕組みを更に強化し、子育てしやすい街づくりが必要だと考えます。それは子育て世代だけでなく、地域の中で様々な世代がかかわり合い、互いに支え合える街（地域共生社会）の実現に繋がります。

法人中期経営計画の2年目となる今年度は、保育部としての行動計画を少しずつ具体化していく1年ですが新型コロナウイルスの分類が「5類」に引き下げられたのち、これまで規制のかかっていた保育活動がどのように緩和されるか、期待をもって見守っていきたいと思います。また、今後の状況等をみながらとはなりますが、地域の皆様との交流も復活する日を心待ちにしております。今年度もどうぞよろしくお願い致します。



令和4年度 ご寄付・ご祝儀一覧

令和4年9月1日～令和5年2月28日に法人各施設にご寄付及びご祝儀をいただきました皆様です。ありがとうございました。
※事前にご承諾いただきました方のお名前を掲載させていただいております。ご寄付いただきました全ての皆様に御礼申し上げます。

ご寄付	ご祝儀	ご寄贈	ご寄贈	協賛品ご提供
松本 勇治 様	ほほえみ薬局 様 富士見下町内会 様	(株)千葉ジェッツふなばし 様 (株)ダシースファクトリー 様	石川 育代 様 勝沼 恒夫 様	(順 不 同)

